

暴夜の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	暴夜の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	暴夜を読んだことのある10代～50代の男70名
調査期間	2025年4月17日～2025年4月22日 2025年5月16日 2025年5月23日 2025年5月30日 2025年6月13日 2025年6月20日 2025年7月4日 2025年7月18日 2025年8月1日 2025年8月8日 2025年8月22日 2025年8月29日 2025年9月5日 2025年12月12日 2025年12月19日 2025年12月27日 2026年1月2日 2026年1月10日 2026年1月17日 2026年1月23日 2026年1月30日 2026年2月6日 2026年2月13日 2026年2月20日 2026年2月27日 2026年3月20日 2026年3月27日 2026年4月3日 2026年4月10日 2026年4月17日 2026年4月24日 2026年5月1日 2026年5月8日 2026年5月15日 2026年5月29日 2026年6月5日 2026年6月12日 2026年6月26日 2026年7月3日

	2026年7月10日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/bouya/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 暴夜を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

10代男性	0人
10代女性	0人
20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	0人
30代女性	1人
40代男性	13人
40代女性	15人
50代男性	41人
50代女性	0人

Q2: 暴夜の感想を教えてください。

暴夜: 1話～5話	5話ラストの展開に衝撃を受けました。 李穂花は絶体絶命の危機に陥っていました。 すでに逃げ場はないですし、逃げたとしても姉達に迷惑がかかるので逃げることも出来ません。 この仕事が上手く行けば姉を解放できそうだっただけに、すごく残念に感じました。 幸い雇い主となる徐智鶴が助けてくれましたけど、その方法にびっくり。 いくら穂花を助けるためとはいえ、ここまでするのかと驚きました。
暴夜: 1話～5話	男女が交わりあい、それを眺める一人のたくましい男性。でも実はその男の目は見えていない。 衝撃的な始まりでした。盲目の主人の非情なまでの態度、それに対抗しようとするヒロインの潔さ。これまでにないヒーローヒロイン像です。天真爛漫だったころの笑顔が一転してかたくななものになっており、それまでにどのようなつらい試練を乗り越えなければならなかったのだろうと胸が痛みます。
暴夜: 1話～5話	歴史に詳しくない人でも何となく四で楽しめる作品です。キャラクターの個性が強く、特に芙蓉館の楼主の堂に入った悪役ぶりは見事というよりも他ありません。5話まで主人公の穂花の努力家の部分や、彼女の身に着けたスキルを理解して雇用した謎めいた貴公子との出会いがメインです。穂花の姉の妓生としての悲惨な境遇などを踏まえて、彼女たちがどうなっていくのか気になる

	ところ。また、穂花も妓生とさせられてしまうのかなど、目が離せません。
暴夜:6話～10話	作中、智鶴が穂花に恥ずかしい姿を見られてしまう場面があるのですが、そこでの展開が本当に面白いですね。この時の穂花の反応がとにかく初々しくて見ていて凄く好感が湧きました。男性経験もまるでなかった穂花ですから、智鶴を見た瞬間、多分訳がわからなかったのだでしょうね。でもその反応がとにかく魅力的でより穂花のことが好きになってしまいます。
暴夜:6話～10話	楼主様から妓籍に入れられそうになったウンファを待っていたのはジハクで、自分が来る前にとんでもない何かが起こったことを感じながらも、ようやくホッとできるひとときを過ごせるかと思ったら、ジハクの目は本当に見えないのかと疑いたくなる場面に遭遇し、ドキドキさせられました。一方で、自身に想いを寄せる若様のことを勝手に姉のことが好きだと勘違いしてしまうところに、新たな火種の予感がしました。
暴夜:6話～10話	代わりのものを用意すると言っても納得せず周りのやつを理不尽に切り殺し脅しをかける。そんなことされたら従わないわけにはいきません。しかも世間の地位も高いようだし。執着愛に理不尽に振り回される穂花が可愛そう。でも周りもタダでは転ばない。姉を助けようとするヒロインと見受け金を吹っかけて対抗する楼主。緊迫した戦いです。
暴夜:11話～15話	11話の本人のセリフから、まるで目が見えているかのように振る舞えるのは後天的に失明したからなのかと思っていたら、15話でやはり本当は見えていることが確定して、まんまと騙されたのが悔しかったです。しかも、ヨンファの正体に気づいているっぽいのに盲目でないことを知られても焦っていないあたり、ヨンファのこともジハクの都合や機嫌次第であつさり始末してしまいそうだと思えて、怖いと感じました。
暴夜:11話～15話	智鶴のこと、知れば知るほどヤバイことが分かります。こんな奴、関わらないのが一番ですね。それにしても、そんなヤバイ相手を襲う相手がいるとは、更には誰かに失明もさせられて。上には上がいるというか、金持ちの世界も生きるか死ぬかで大変です。そんな日常の癒しが官能小説を若い女性に読ませることなら、それもまたヤバイ
暴夜:11話～15話	ジハクがウンファによく似ていると評する、かつて慕っていたという「あれ」の正体が非常に気になりました。ジハクが「あれ」のことを思い出して話題に出したのはウンファに膝枕してもらっている時とウンファの目の前で入浴している時なので、かなり近い関係の女性なのではないかと推測できます。しかし、怒りに駆られて首を引きちぎったというセリフから考えると、人間ではなく愛玩動物の可能性が思い浮かびますし、かと思えば口数が多かったと察せられるセリフもあって、謎は深まるばかりです。
暴夜:16話～20話	これで本当に目が見えていないとしたら、智鶴の身体能力が高すぎてヤバイ。見えてるのにわざと演技して好きな子の反応を楽しむ。となるとまたヤバイ性格の持ち主ということになってしまいますね。そんなヤバイ奴とは関わらないのが身のため。自慰行為を行い自分で自分をおさめるしかないのです。もしも行動を起こすとあの官僚みたいに命をも失うことに。それにしても智鶴はそういった意味でもヤバイ。暴走しすぎです。敵に回したくありません。
暴夜:16話～20話	周り中が敵という中で智鶴にとって穂花は癒しでしょう。ですがそれで彼女に対して優しくするのかというとそんなことはない。やはり智鶴は智鶴です。一方で詩勲も穂花に対する想いを募らせていきますが、それをごまかすために行ったのは自慰行為とは。男たちの嫉妬心はどういった行動につながるか分からず恐ろしいものがありますね。
暴夜:16話～20話	智鶴に詩勲と二人のイケメンに愛されて、でも全然穂花がうらやましいとは思えないのです。だってどちらもヤバイ奴らですから。自分の所有物だと主張してくるだけでなく手を出そうとするやつを問答無用で切る智鶴も怖いけれども、自慰行為で紛らわせようとする詩勲もどうかと思う。普通に愛することできないのでしょうか。ゆがんでいる。
暴夜:21話～25話	妹がダメだから姉を。詩勲の行動にはドン引きです。そして穂花を愛する智鶴。好きなら好きでもっと分かりやすく愛情を示しましょう。あの暴君が彼にすれば穂花のことを考えて歩み寄っている様子はちょっぴり可愛い。でも慣れないことをするから全然気づいてもらえないのが哀れと言うか。とはいえずいに二人は一緒にいることができました。

暴夜:21話～25話	不器用に愛情を示す智鶴。不器用すぎてまったくわかってもらえないところが面白い。とはいえようやくベッドシーンとなりました。智鶴にとってはうれしい展開ながら、決して愛していない相手に抱かれてそれでも感じてしまっている。そんな穂花が不憫です。不憫と言えば詩勲も。とはいえ妹がダメだから姉をというのは暴走しすぎでしょう。
暴夜:21話～25話	ようやく穂花と結ばれることができて、智鶴にとっては万々歳の展開ですがただ力でねじふせただけ。彼の思いやりはまったく通じてませんただ身体が繋がったにすぎないみたいです。一方で穂花の姉と詩勲もまたつながることに。ただこちらは更に複雑。姉と妹は別の人間です。代わりになんて求めてもどちらも不幸になるだけでは。
暴夜:26話～30話	この作品は本当にキャラクターたちの心理を丁寧に描き出してくれるので面白いですね。穂花が智鶴と関係を深めている場面は凄く独特の空気感を抱けました。穂花はやはりすごく優しい性格で姉のためだったら多少辛いことは我慢できるという心持ちなので、その点も魅力的ですね。智鶴の気持ちとは裏腹に結構なことを割り切って行動している彼女の姿がとても印象的でした。
暴夜:26話～30話	智鶴は明らかに穂花に対して思いを募らせていつているようですが、身体はつながっても心はまだ。無理やり強要されて穂花が智鶴に対して愛情を持つのはかなり難しいのでは。彼女が求めるのは姉の解放。ですが妓主もしたたかなもので、そううまくいきませんね。更には姉と詩勲が恋仲だなんてことになって、しっちゃかめっちゃかです。
暴夜:26話～30話	ウンファとジハクがとうとう一線を越えて深い仲となり、ウンファの気持ちが自分に向いていることを感じたおかげか彼女に対するジハクの態度がかなり柔らかくなって、遠からず相思相愛になりそうだなと思いました。しかしその一方で、ジハクの姉がウンファとヨンファの父親に冤罪をかぶせたことが明らかになったり、シフンの様子が不穏だったり2人の仲を引き裂く出来事が起こりそうな気配もあり、ウンファやヨンファが辛い目に遭わないか心配です。
暴夜:31話～35話	子供の頃から智鶴は皇太子として、いろいろな苦労を強いられてきたということが作品内で語られていて、とても興味が湧きました。やはり位が高い人には、それなりの負荷がかかっているということを知っていると強く実感させられますね。そんな智鶴がその厳かな立場を捨てて平和に暮らしたいと思い始めた姿は必見です。その心変わりの背景にはやはり穂花の存在があるのでしょうか。気になります。
暴夜:31話～35話	たまたま穂花が街を歩いていると虎林が虎と相対している場面に遭遇してしまうので、その緊張感にあふれたシーンは必見ですね。穂花に危害が及んでしまうのではないかとハラハラ感が募りました。でも、智鶴がその場に颯爽と来てくれて穂花を守ってくれる展開はすごく格好良かったですね。なんだか穂花を救いにやってきたヒーローっぽかったです。
暴夜:31話～35話	トラに襲われたことで怯えている穂花がとても可愛かったですね。智鶴がそんな彼女を落ち着かせてあげようと優しくキスするシーンは必見です。その時の横顔がとにかく綺麗で目を奪われてしまうこと間違いなしです。智鶴の言動には本当に1ミリたりとも無駄な動きがないので、その点が本当に魅力に溢れています。頼り甲斐がある感じで穂花が彼に惹かれてしまうのも理解できます。
暴夜:36話～40話	穂花に対しての特別な思いが、どんどん膨れ上がっているのを智鶴を見ていると深く感じられますね。彼女が危険な目に遭ったことで、より智鶴の中の危機管理能力に厚みが増したように思います。作中、彼女を絶対に失いたくないという気持ちが智鶴の表情に溢れていて、そこも面白いですね。初めに会った時の顔とは全くの別人のようになっていて目が離せません。
暴夜:36話～40話	詩勲の父親である宗瑞の言動が本当に厄介ですね。穂花に対して智鶴暗殺に加担させるような指示を出していくので凄く見ていてドキドキしました。穂花が本当に智鶴の食事に毒薬をもってしまふのかとハラハラしましたが、その緊張感が物語を更に面白くしています。一方、智鶴の穂花に対して気持ちがより一層高まりを見せていく姿も必見ですね。彼の感情の部分が作画から伝わってきます。

暴夜:36話～40話	ヒインからジハクの正体や父親の処刑と関係があることを知らされたり、チュンヒに裏切られたり、シフンの父親からジハクに毒を盛るよう脅されたりと、胸が痛くなるような展開続きでウンファがかわいそうでした。ただ、ウンファの軽率さも原因の1つだと思うので、これを機に慎重さを身につけるべきだとも思いました。また、気分屋で短気なはずのジハクがウンファを問い詰めたりせず、葛藤している様子が印象的でした。
暴夜:41話～45話	穂花の姿を目の前にして自分の感情を抑えることができなくなった智鶴の内面の部分が非常に面白いですね。今までは、あれほどクールに振る舞っていた智鶴が「穂花の肌に触れたい」と強く思ってしまう姿が人間らしいです。やはり智鶴は愛情にかなり飢えていたのでしょうね。なので穂花の優しさがとにかく身に染みる感じで彼女を求めていることが強く伝わりました。
暴夜:41話～45話	智鶴がここまで穂花に心酔してしまうのには、多分心の根底の部分に似た要素があるからだと思いましたね。いろんな背景を照らし合わせていくと二人とも優しい人間で愛情を欲しているという側面がわかるので本当に見ていてドキドキできます。穂花の彼に対しての振る舞い方が、どんどん魅力的になっていくのでその辺のプロセスを見ていくのが非常に興味深いです。
暴夜:41話～45話	今まで人のことを愛したことがなかった智鶴が初めて穂花という女性を心から愛してしまった姿が興味深いです。恋をしないわけですから自分の感情が一体どういうものなのか、いまいち理解していない智鶴の姿が可愛いです。誰かが「智鶴は今恋してる」と伝えてあげればすぐに彼もスッキリするはずなので、その担い手がどこかにいないかとちょっと考えてしまいましたね。
暴夜:46話～48話	この作品を読んでいると智鶴のことがよくわからなくなる場面に結構遭遇します。少し前の場面では穂花のことを心から愛していたのに、少ししたらまたクールな表情になっていたりするので本当の気持ちが一体どこにあるのかいまいち掴みきれません。でもそのミステリアスな感じが智鶴の魅力にもなっているので俄然彼の一挙手一投足から目が離せませんね。
暴夜:46話～48話	穂花と智鶴の会話シーンに注目してほしいです。独特のテンポで展開されていく二人の会話劇なのですが二人の信頼関係が如実に伝わってくるので凄くほっこりとした気持ちを抱けます。個人的に智鶴のことを優しい目で見つめている穂花の対応がとても魅力的ですね。彼女の慈しめない愛情が見え隠れしているので凄くいいですね。智鶴のセリフ一つ一つにも個性があって会話のやりとりにかかなりの面白みがありますね。
暴夜:46話～48話	とても緊張感があり良い意味でインパクトのあるセリフが様々にあったので、そんな会話だけでも入り込むようにして読めましたし、医師からの衝撃的な言葉もあったので、これからどうなるんだろうのかどんどん続きが気になりました。また、智鶴の視力は大丈夫なのかなど自分の事のように心配になる展開もあり、全く目が話せなくなったので没頭してしまいました。
暴夜:51話～52話	徐智鶴の意外な一面を見れたのが良かったです。あの徐智鶴にヤキモチを焼くなんていう微笑ましい一面があったなんて。怖い系のイメージが強かっただけに、穂花と楽しく過ごしている場面は印象的でした。その後の会合シーンが、そのことをさらに際立たせました。徐智鶴の怖さが目立ったシーンでもあります。それが返って穂花への愛情を感じさせました。徐智鶴が優しい顔を見せるのは穂花にだけなんだと。二人の関係が進展したことにホッくりしました。
暴夜:53話	本音を言わないのでわかりづらいですが、徐智鶴が穂花に惚れているのはわかりました。両者の身分や立場が邪魔をして互いの気持ちは伝わりにくいですが、想い想われな感じが微笑ましいです。 穂花の様子を気にかけて、駆け付ける徐智鶴にホッくりしました。 一方、後半では徐智鶴の怖さが改めてわかりました。いくら相手が自分の命を狙ってきた者だとはいえ、あそこまで冷徹にバツサリ切り捨てられるものではありません。 それでいて頭も冴えていますし、敵に回った院君が哀れに感じる程でした。
暴夜:54話	序盤の尚雲に下知を下しているシーンや穂花の悪夢から、徐智鶴は過酷な人生を送ってきたんだなと痛感しました。それが徐智鶴を苛烈な性格にしたんだと思います。そんな徐智鶴にとって穂花は特別といいますか、オアシスのような存在なんだだろうと痛感しました。穂花を包み込むよう

	に抱いている時の徐智鶴はまるで別人のようでしたから。このまま穂花と平穏な日々を過ごせればいいのにと感じました。
暴夜:55話	徐智鶴は穂花を愛していたんだとわかって良かったです。 というのも徐智鶴って普段は高圧的ですし、愛情表現とかもしません。 穂花に対してどういう気持ちを持っているかわかりづらかったんですよね。 それが今回では明かされてスッキリしました。 気になったのは詩勲達です。 英花に関しては既にフングリがついているでしょうし、そこまで気にはなりません。 でも詩勲はどうでしょうか。 穂花に好意を持っていましたし、今の穂花を見てどう感じるのかが気になりました。
暴夜:56話	想定外の展開に驚きました。詩勲は徐智鶴へのお目通りが叶い、一安心と思ったらまさかこんな展開になってしまうなんて。相変わらず徐智鶴の行動は読めないですね。気になったのは詩勲が逃げ出したことです。詩勲を案内した崔栄興が切り伏せられたのなら、わからないでもありません。斬られた男と詩勲はどういう関係だったのか。詩勲はどこへ向かおうとしているのか気になりました。
暴夜:57話	穂花が徐智鶴をよく宥めることができたものだと感心しました。宴の席から逃げ出した程度なら、怒りを収められるとは思いますが。しかし詩勲の吐いた言葉は暴言そのもの。問答無用で詩勲を斬り捨てたとしてもおかしくはありません。そんな徐智鶴の心に響く程の影響力を穂花は持つようになったのかとビックリしました。気になったのは詩勲が最後につぶやいた言葉です。これが暗殺を意味するものであることは明らか。穂花がこれにどう対応するのか興味が湧きました。
暴夜:59話	穂花と英花が無事に再会出来てホッソリしました。二人とも本当に互いを心配し合っていたんですよね。穂花からすると、自分が出てきたことで英花が芙蓉館で酷い扱いを受けていないかとても心配だったでしょう。それは英花からしても同様で、穂花が徐智鶴からどのような待遇を受けているのか気になって仕方なかったと思います。そして徐智鶴はそんな二人に気を利かせ、そっとしてあげました。血なまぐさいシーンが多い本作なだけに、二人が涙を流して再会を喜ぶシーンはとても良かったです。
暴夜:61話	穂花の妊娠には驚きました。まだ確定していないとはいえ、症状的に穂花が妊娠しているのはほぼ確実。となれば穂花は徐智鶴の妾的な位置づけになるのは間違いありません。庶民である穂花が徐智鶴の子供を産むのは問題になるでしょう。また、これまで穂花にひどいことをしてきた者達にも何等かの処罰が下されそうです。男性が持ってきたお茶が気になりました。経緯から察するに、男性が持ってきたお茶は毒入りの可能性が濃厚です。本当にただのお茶ならいいのですが、もしこれが毒だった場合徐智鶴が荒れ狂うことは間違いありません。ここから一騒動起きそうですし、次の展開が楽しみです。
暴夜:62話	平和的なアプローチを試みる徐智鶴に驚きました。出だしから違和感があったんですよね。穂花にお茶を渡そうとしていた男が逃げていきましたけど、あの徐智鶴がそんな隙を見せるはずありません。問答無用で叩き斬っていてもおかしくないぐらいです。その後も違和感は続きます。謀反を防ぐため、国王陛下に拝謁しようとするのですから。これまでの徐智鶴なら速やかに制圧したはずです。それらの理由が穂花にあると知った時は本当に驚きました。穂花が徐智鶴に良い影響を与えているようで何よりです。
暴夜:63話	苦労が絶えなかった英花が、ようやく地獄のような状況から抜け出せそうで安心しました。主役は穂花なのでなかなか出番がありませんけど、一番可哀そうなのはこの英花なんですよね。穂花と二度と会うことがないぐらい遠くまで行くな、当然芙蓉館の人達とも関わることもないでしょう。一波乱ありましたが、やっと自由になれるんだなとホッとしました。
暴夜:64話	とうとう英花が去ってしまうんだなと感慨深くなりました。英花自身は何も悪いことをしていないのに、周囲の諸事情によってこんな目に遭ってしまうなんて。新天地では幸せに暮らして欲しいですね。気掛かりなのは尚雲です。英花を見届けに来たのは仕事としてのものかもしれませんが、それ以上の想いがあると感じました。このまま英花が去っていくところを見ただけで終わってしまうのか気になりました。

暴夜:65話	徐智鶴は言葉足らずだったなと感じました。穂花を寝室に軟禁する際、身を案じているからだと言伝えておけば穂花も笑顔で過ごせていたと思います。しかし何も伝えなかったばかりに穂花は苦悩することに。そこを付けこまれそうになっているわけですし、モヤっとしました。気掛かりなのは穂花がどういう決断を下すか。不安になっているだけなら穂花も裏切らないでしょうが、姉のことがあります。もし穂花が男のいうことを鵜呑みにしてしまったらと思うとハラハラしました。
暴夜:66話	徐智鶴のマイペースっぷりがおかしかったです。彼には暴力的な一面もありますが、それはいつも目下の者に向けられていました。しかし今回、叔父にすら刀を突き付けてしまったのです。叔父が今回の騒動に関わっているのではないかという疑いはあるものの、確かな証拠はありません。それでもここまでやってしまう徐智鶴の姿に、思わず苦笑してしまいました。気になるのは、徐智鶴に届いた手紙です。手紙に書かれている「語り部」が穂花を指しているのは間違いないでしょう。これが本当のことなのか、確かめたくまりました。
暴夜:67話	相手の方が一枚上でしたね。もしも、最初から力押しで屋敷から去れと言っていれば、穂花も抵抗したと思います。しかし相手が攻めてきたのは穂花の心。徐智鶴への想いを上手く利用してきました。年を食ってるのは伊達じゃないかと恐れ入りました。最後の展開が絶妙でした。一生懸命逃げてきた徐智鶴の可能性もありますが、刺客を差し向けてきた可能性も十分に考えられます。果たして穂花の手を掴んだのは誰なのか、その正体が気になりました。
暴夜:68話	最初はとても緊張しました。穂花はただの村娘です。もし襲われたら、どうすることもできません。だからこそ、突然腕を掴まれたときは絶望的な気持ちになりました。しかし、腕を掴んだのが虎狩りの長だったとは思いませんでした。しかも、虎狩りの長だけでなく、みんなが穂花のことを心配して集まってくれていたのです。良い人たちに出会えたのだと、心が温かくなりました。
暴夜:69話	想定外の展開でした。穂花は屋敷で過ごすうちに、屋敷の人々と打ち解けて良好な関係を築いていたと思います。そのため、穂花を狙うのは院君の手下だろうと考えていました。それだけに、この展開は非常に衝撃的でした。気になるのは英花のことです。英花は宣教師達と共に遥か彼方まで移動しており、そう簡単に手を出せる距離にいるとは思えません。しかし、血のついた衣服が見つかっているのです。何もなかったとは考えにくく、真相がどうなっているのか気になります。
暴夜:70話	王宮の人達の反応に驚きました。徐智鶴にとって王宮はアウェイだと思っていただけに、味方がいたことは想定外。徐智鶴を大切に思ってくれる人がいることに、安心感を覚えました。気になるのは、手紙を読んだ後の徐智鶴の行動です。徐智鶴にとって、穂花はかけがえのない存在でした。それが失われたとあれば、冷静でいられなくなるのは間違いありません。徐智鶴がどのように動くのか、目が離せません。
暴夜:71話	徐智鶴のバイタリティは凄いですね。ここへたどり着くまでも手傷を負いましたし、体調は万全ではありません。にもかかわらず、手当すらせずに帰っていくのですから。その決断力と行動力には驚きました。気がかりなのは、部下達です。穂花は死んでいません。つまり、部下達は徐智鶴に嘘をついたということ。流石に嘘とバレては不味いでしょうし、どのように誤魔化すつもりなのか注目したいです。
暴夜:72話	徐智鶴と穂花が互いに想いあっていることがよくわかりました。どちらにとっても、欠けてはいけない存在なんでしょうね。特に、あの徐智鶴が悲痛に満ちた顔をするとは思いませんでした。一方、穂花はどうするつもりなんでしょうね。英花と一緒に過ごしているということから、河礼から遠く離れたところまで来ているのはわかります。このまま徐智鶴を忘れて英花と旅を続けていくつもりなのかどうか、気になりました。
暴夜:73話	虎林たちは徐智鶴に会えて安心しました。もし虎林たちが事情を話せていなかったら、徐智鶴は穂花を死んだものと考えていたと思います。となれば、徐智鶴の心は病んでしまっていたかもしれませんから。気がかりなのは穂花です。あの様子だと、妊娠しているのは間違いありません。身籠った状態で旅をするのは難しいでしょうし、落ち着ける場所を探して欲しいものです。
暴夜:74話	神父のファインプレーですね。穂花は英花にすら、妊娠したことを打ち明けていませんでした。悪阻は結構キツイようですし、このままだと流産してしまう可能性は高かったと思います。でも神父の言葉によって、穂花は前向きに考えるようになりました。おかげで無事出産できそうな感じになってきましたし、一安心です。気になったのは、徐智鶴に穂花が活着しているとバレってしまったこと

	です。村の雰囲気から穂花も違和感を覚えたようですが、見つかるのは時間の問題でしょう。再会する時が近づいてきたように思いますし、その後の展開が楽しみです。
暴夜:75話	徐智鶴のタイミングが本当に絶妙でした。もう少し遅れていたら、大惨事になっていたことは間違いありません。よくぞあのタイミングで助けに入れたものだと感心しました。気になったのは、ゴロツキたちの今後です。村人たちの話からすると、張先生が裏で糸を引いていた可能性が十分にあります。そんな連中を徐智鶴が見逃すとは思えません。彼らにどのような処罰が下されるのか、注目したいと思います。
暴夜:76話	穂花は気持ちを正直に伝えた方がいいと思いますね。誤解させたままだと、徐智鶴に悪い影響を与えそうです。何より、身重だと伝えなければ、穂花自身大変でしょう。英花と尚雲の関係が気になりました。英花が男性を意識して頬を染めるなんて、これが初めてのことでないでしょうか。こちらの関係も上手く行って欲しいものです。
暴夜:77話	穂花が徐智鶴にすべてを打ち明けたと聞いて、ほっとしました。正直なところ、穂花がこのまま英花たちについていくのは無理があると感じていたんですね。普通についていだけなら、そういう選択もあり得たかもしれません。しかし、穂花は身重です。このままの生活を続けていたら、遅かれ早かれ流産していたのではないのでしょうか。徐智鶴なら穂花が無理のない生活を送れるよう手配してくれるでしょうから、一安心しました。
暴夜:78話	妊娠していることを伝えるのは勇気が必要だったでしょう。でも、頑張った甲斐があったように感じました。というのも、医師の診断結果を聞いてから、徐智鶴の様子が変わった気がするからです。以前は威圧的で、近づくにくい印象がありました。ところが、今の徐智鶴は陰しさがなくなり、穏やかな雰囲気になったように感じます。二人の関係が良い方向に進んでいるように思えました。
暴夜:79話	さすがは徐智鶴、といったところですね。あの一瞬でここまでの対応策を思いつくとは、思わず感心してしまいました。本人は望んでいないのかもしれませんが、むしろ徐智鶴こそが王にふさわしい人物のように感じられます。一方で、最後のセリフが気になりました。今回の件で全てに決着がつき、今後は血なまぐさい争いを避けられるという意味であれば良いのですが。もしかすると体調が優れないのではないかと不安もあり、少し心配になってしまいます。
暴夜:80話	崔栄興には、彼なりの事情があるのだと分かりました。だからこそ、この関係性はむしろ良いものだとも感じます。互いに利用し合える関係だからこそ、裏切られることもないと思うので。一方で、徐智鶴の想いには驚かされました。まさかここまで穂花を深く愛していたとは予想外で、その気持ちの強さが印象に残ります。穂花の心が大きく動いたのも、無理はないと感じました。できることなら、この穏やかで微笑ましい関係が、これからも続いてほしいものです。
暴夜:81話	穂花と結婚するための準備が、着実に進められているように感じました。敵対勢力を一掃すれば、穂花だけでなく、その子どもも安心して暮らせるようになります。さらに、穂花がまとめた治療法を功績として位置づけることで、徐智鶴の結婚相手として相応しい地位を得られるように計画していました。血生臭さを感じることは否定できませんが、穂花との結婚が現実味を帯びてきて、ほっこりしました。
暴夜:82話	人の運命とは、本当にわからないものだと痛感しました。穂花にとって希仁は、複雑な感情を抱かざるを得ない存在だったはずですが。というのも、父親が不運に巻き込まれた出来事に、希仁が関わっていたのですから。そんな相手を頼ることになるとは、まさに人生の巡り合わせの不思議さを感じさせられました。一方で、徐智鶴の動向も気になることです。気がかりだった穂花を希仁に託したことで、守るべき存在の安全はひとまず確保されました。そうなれば、徐智鶴は制約なく動けるようになります。果たして彼が何をしようとしているのか、今後の展開から目が離せません。
暴夜:83話	善が穂花に与えた影響は、かなり大きかったように感じました。いわゆるアニマルセラピーに近い作用があったと考えるとしっくりきます。小さい子供と触れ合うことでオキシトンが分泌され、それが穂花の心を安んじてくれたのではないのでしょうか。一方で、徐智鶴がそっと様子を見に来た場面は印象的でした。あえて起こさず、静かに見守るという行動からは、穂花への強い想いと気遣いが伝わってきます。これから厳しい展開が待っていそうな気配もありますが、だからこそ、無事に穂花のもとへ戻ってきてほしいです。

暴夜:84話	穂花の妊娠を心から祝福してもらえたのは、本当に温かい場面でした。これまで宋が彼女を気にかけてきた積み重ねがあるからこそ、その喜びもひとしおだったのだと思います。見ていて自然と頬が緩むような、優しいひとときでした。その一方で、徐智鶴の目の状態は気がかりです。描写からすると、かなり差し迫った状況に感じられました。このままでは視力を失うのも時間の問題のように思えてしまいます。治療の手が間に合うのかどうか、今後の展開に注目したいです。
暴夜:85話	金言修のもたらした情報は、まさに値千金であったように感じられました。治療において、毒の種類が判明しているか否かは大きな差を生みます。たとえ具体的な植物名までは特定できていなかったとしても、その情報は原因解明へと至る重要な手がかりとなったのではないのでしょうか。もしかすると、徐智鶴の視力が回復するかもしれません。一方で、院君の動向が気になりました。徐智鶴の企てが院君に把握されていたことが明らかになり、事態はより複雑さを増しています。院君が次にどのような行動に出るのか、注目したいです。
暴夜:86話	穂花の成長を強く感じさせられる展開でした。以前の穂花であれば、突然の事態に動揺し、まず徐智鶴を頼ろうとしていたのではないのでしょうか。しかし、今の穂花は違います。混乱する状況の中でも冷静さを失わず、自分が出来ることをすべきだとあの一瞬で決断してみせました。感情に流されるのではなく、自らの役割を理解して動けるようになった姿は、以前とはまるで別人のようで、とても印象的でした。一方で、気になるのは徐智鶴の行動です。金言修の死によって感情が高ぶっていたことは理解できますが、それでも今回の振る舞いは少々行き過ぎているようにも感じました。この行動の責任をどのようにして取るつもりなのか、注目したいです。
暴夜:87話	これまでの徐智鶴は、少しの裏切りや敵意に対しても容赦なく人を手に掛けてきました。そのため、今回も院君をその場で始末するのだらうと思っていただけに、意外です。徐智鶴が選んだのは、単純な死ではなかったのですから。あの場で命を奪われた方が、院君にとっては救いだったのかもしれませんが。終わりの見えない精神的な制裁には、思わず寒気を覚えるほどでした。徐智鶴の執念深さや冷酷さが際立つ展開だったように思います。とはいえ、一連の騒動にひとまず決着がついたことには安心しました。これで徐智鶴と穂花も、しばらくは穏やかな時間を過ごせるのではないのでしょうか。あとは、徐智鶴の目がどこまで回復するのが気になりました。視力の問題は今後の生活や立場にも大きく関わってくるだけに、どのような結末を迎えるのか注目したいです。
暴夜:88話	徐智鶴の粋な計らいに驚きました。これまでも、徐智鶴が穂花を深く愛していることは十分伝わってきました。ですが、ここまで穂花の心に寄り添った贈り物を用意していたとは想像以上です。穂花が最も喜びそうなことを知っているあたり、本当に穂花を大切に想っているのだと感じました。一方で、気になるのは今後の穂花の生き方です。もちろん、愛する徐智鶴のもとを離れることはないでしょう。ただ、穂花の性格を考えると、ただ守られて何もせず暮らすだけの生活を望むようには思えません。これまで苦勞を重ねてきたからこそ、自分なりの役割や居場所を見つけようとするのではないのでしょうか。これから穂花がどんな生活を選び、どのように幸せを築いていくのか、注目したいです。
暴夜:89話	英花と尚雲の関係が微笑ましく感じました。個人的には、英花と尚雲が結ばれる展開になればいいなと思います。英花の妹である穂花は、すでに主君である徐智鶴と強い絆で結ばれています。もし尚雲が英花と結婚することになれば、徐智鶴との関係もより深まり、互いの信頼関係はますます強固なものになるでしょう。そうした意味でも、二人には幸せになってほしいと感じました。一方で、徐智鶴の治療も気になります。今回、視力を失った原因が判明したことは大きな前進でした。しかし、肝心の治療法はまだ見つかっていません。徐智鶴が光を取り戻すことはできるのか、今後の展開に注目したいです。
暴夜:90話	英花と尚雲の関係は、今回でかなり前進したのではないのでしょうか。これまでの英花は、自分の気持ちを後回しにして周囲のために尽くし、自分を押し殺しながら生きてきたように思います。その姿を見てただけに、彼女には心から幸せになってほしいと強く思っていました。だからこそ、今回の展開はとても喜ばしく感じられます。医師経由とはいえ、英花の気持ちは尚雲にもきちんと伝わったのではないのでしょうか。これからも二人にはその絆を大切に育みながら、幸せな関係を築いていってほしいと感じました。

暴夜:91話	これほど素敵な結婚祝いはないでしょうね。穂花は一時、英花とはもう二度と会えないのではないかと感じていました。それだけに、結婚を目前に控えたこのタイミングで再会できた喜びは計り知れないものだったと思います。まさに何物にも代えがたい贈り物でした。しかも、かつて二人を苦しめた宮中の騒動はすでに解決しています。以前のように引き離される心配もなくなり、これからは姉妹として穏やかな時間を過ごしていけるでしょう。今後も仲睦まじく暮らしていったほしいですね。また、本作はいよいよ今回で最終回を迎えました。姉妹の再会、そして穂花と徐智鶴の結婚という最高の形で物語が締めくくられた、心温まる結末だったと思います。
暴夜:92話	外伝ということで、舞台が現代に移っていて驚きました。さらに面白かったのは、ウンファとジハクの立場が本編とは逆転していたことです。会社ではウンファが上司、ジハクが部下という関係になっており、その新鮮なやり取りを楽しむことができました。もっとも、ジハクが本当に社長の息子なら、この力関係も変わってくるんでしょうけどね。一方で、改めてジハクの有能ぶりには驚かされました。経歴はもちろん、実務能力も尋常ではありません。流石ジハクだと感じさせられる活躍ぶりでした。
暴夜:93話	ジハクが読み上げた本の一節には、懐かしさを覚えました。振り返ってみると、徐智鶴と穂花の関係は、この言葉をきっかけに大きく動き始めたように思います。それだけに、外伝で再びこのセリフが登場したことには感慨深いものがありました。本編を知っているからこそ、その一言に込められた意味や二人が歩んできた軌跡を思い出し、思わず胸が熱くなります。過去と現在をさりげなくつなぐ、ファンにはたまらない演出だったと感じました。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス